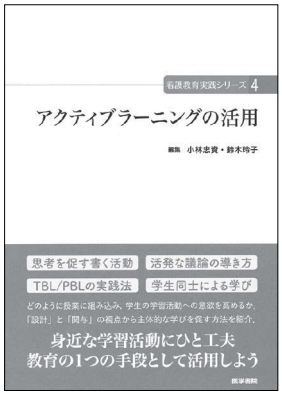
BOOKS 書評

評者：阿形奈津子　京都中央保健看護大学校看護学科学科長

『看護教育実践シリーズ4
アクティブラーニングの活用』

学生だけでなく，教員も主体的に授業に取り組むための書



シリーズ編集：中井俊樹，編集：小林忠資，鈴木玲子／定価：本体2,400円＋税
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657

看護教育実践シリーズの編集者である中井俊樹先生とは，本書のシリーズ『2　授業設計と教育評価』『3　授業方法の基礎』の発刊と「看護の教育をよくするために」をテーマとした座談会の席で初めてお会いしました。中井先生は愛媛大学で教育・学生支援機構の教授であり教育の専門家であります。看護教育には専門学校や大学の講師として長年かかわられ，看護教員が教育に多くの悩みがあることを知られたとお聞きしました。そこで今回，看護教育を担当される方のためにシリーズで出版されたわけです。先生はとても物腰が柔らかく，看護教育を教育学の視点から優しく，ていねいに語っておられたことが印象的に残っています。本書もそのようなていねいで，細やかな書籍です。

さて，この書籍のなかには数多くの手法があり，多くの先生方の実践や工夫があり，特にコラムには事例などをとおしてわかりやすく書かれています。授業展開にこれらの手法を活用することで，学生が学習活動にコミット（関与）する授業となると考えます。ただし，この本は手法をそのまま活用するようなhow-to本ではありません。多くの手法を教員独自で，学習集団のレディネスや教授内容を吟味し精選して活用していくものです。学生にアクティブラーニングを求めるのなら，教員も主体的に授業を構築し，自らがつくり上げる授業を展開しなくてはなりません。

図や表，ワークシートなどは，著者のみなさんがよりわかりやすく伝えるために具体的に表わされています。特に，第4章「書く活動を通して思考を促す」でのノートの取り方（コーネル式ノートテイキング）は，学生が授業で書くノートをワンランク上のものに変える方法だと思います。学生の学びや疑問が見えるノートがあれば，授業での学生個々の学びの確認と支援につながります。また，多くの看護教員は臨地のカンファレンスでディスカッションを効果的にしたいと願っていると思います。しかしなかなかうまく運営できないことが多く，悩みでもあります。そこで，第6章「ディスカッションを導く」では，ディスカッションの意義から展開方法，テーマ，発問の例などがていねいに解説されています。ぜひ活用して，臨地のカンファレンスで学生たちが有意義なディスカッションができる支援者になってください。

その他，どこを見ても，教員の日ごろの悩みに少しヒントを与えてくれるものになっています。

学生が活き活きと授業に主体的に取り組むこと，これは教員の願いでもあり，目標でもあります。この書籍を活用し，アクティブラーニングが展開される授業を主体的につくり上げてください。明日から授業に使える1冊として本書をお勧めします。

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2018

0047-1895/18/紙：￥500/電子：￥750/論文/JCOPY

2026/10/08 10:20:56